広島別院だより

Vol.41
夏号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会　発行

非核非戦法会が勤まる

七月六日、非核非戦法会兼原爆死没者追弔会が勤まりました。講師は姫路市興宗寺の木村慎師です。以下、法話の抄録です。

木村慎　師

●自己自身を問われる子供たちとの出会い

東日本大震災に伴って起きた福島第一原発の事故により、自由に屋外で遊ぶことが出来なくなった子供たちの保養事業として、山陽教区では震災以来、「FCプロジェクト」と題して毎年夏休みに多くの福島の子供たちのホームステイを受け入れて来た。当初、子供たちのために何か出来ることはないかと、悶々とした気持ちで私も事業に参加してきた。

その事業の中で、子供たちにお話に来て下さった酒井義一先生(東京教区東京5組)が冒頭、子供たちに「ごめんなさい。皆さんを苦しめている原発の事故は大人である私の責任です。事故が起きる前から私は原発の抱える問題を学んできましたが、それでも原発によって作られた電気を使い続け、止めようとしませんでした。それが事故につながり、今、皆さんを苦しめています。それは他ならない私が起こした事故なのです」と謝罪された。

子供たちにきちんと向き合う酒井先生の姿に、原発の問題を国や東電の問題としてきた私自身の姿勢が問われていると感じた。その事を通して、放射能の問題を私自身の問題として受け止めることを教えられた。実は福島の子供もたちとの出会いは私自身が問われる出会いだったのである。

●仏の救いとは歩みを賜ること

和田稠先生は蓮如上人の「如来われ救い給う御恩」という言葉を受けて「往生一定と生活が確立した現実の真っ只中で限りなく現実に問われ、現実を問い、歩み続けていく道が開けたということが、かけがえのない御恩なのだ」と示された。

阿弥陀如来による救いのありがたさとは、ただ自らの救いに安住するということではなく、そこから現実の有り様を問い、また自らの有り様が問われ続けていく歩みを賜ることなのである。

お寺の活動いろいろ

【子ども食堂はじめました】

現在、広島別院を会場に毎月、子ども食堂が開かれています。加藤聖子代表（別院門徒）を中心に安芸南組の有志スタッフが参加し、毎月一回開催し、五名～十名の近隣の子供たちが来場してくれています。

【仏教入門講座開講】

七月十五日、真城義麿先生(元大谷高校校長)を迎えて仏教入門講座(第一回)が開講しました。大谷派以外の方々も含め多くの参加者があり、真城先生の楽しく分かりやすいお話を熱心に聴聞されました。連続講座です。ぜひご参加ください。

【Fブロック同朋大会】

六月四日、アステールプラザでFブロック同朋大会が開催されました。中島岳志氏(政治学者)と土井善晴氏(料理研究家)の講演に続き、川村妙慶氏(真宗大谷派僧侶)を交えた対談に大谷派門徒だけでなく、多数の一般応募の方々が詰めかけ会場は大いに沸きました。すでにウェブ上で対談をしている中島・土井両氏ですが、『ええかげん論』と題した政治・料理・親鸞という異色のコラボによる生の対談が今回、実現しました。

川村妙慶 師

土井善晴 師

中島岳志 師

親鸞聖人の生涯を辿る

結婚

法然門下でのもう一つの大きな出来事は、僧でありながら結婚したことです。ところが親鸞がいつどこで誰と、そしてなぜ結婚したかについて、これらに明確な資料はありません。前者については法然門下であったときに、朝廷に仕えた官人の娘である、恵信尼という女性と結婚したというのが定説となっています。ではどこで二人は出会ったのでしょうか。

以前紹介した「恵信尼消息」で、恵信尼は親鸞が法然のもとを訪れたことを思い出して書いています。その原文では二人のやりとりを、伝聞である「けり」ではなく直接経験の「き」の活用形で書かれています。つまり恵信尼は法然と交流があり、親鸞と法然のやりとりを見ていたのではないかと推測されます。

そしてなぜ結婚したのかはわかりません。行者宿報偈にでてくる救世菩薩を恵信尼に見出だしたという説もあれば、修行僧ではなく在家の象徴として妻帯を選んですべての人が救われることを明らかにしていくためだった、という説もあります。いずれにせよ親鸞は恵信尼との結婚により、さらに念仏の仏道を歩む決心をしたと言えるでしょう。

法座・講座等のお知らせ

9月2日(土) 真宗・親鸞入門講座

【講　師】　真城義麿 先生　　【次回１２月２３日(土)】
【日　程】　毎回 13:30～16:00【会　費】500 円
〈日常生活の様々な疑問を仏教に学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉

9月25日(月) 秋彼岸会

【講　師】　谷川法海 先生（東白島町　圓光寺住職）
　　髙橋仁誓 先生（倉 橋 町　得蔵寺住職）
【日　程】　14:00～勤行と法話　16:30 終了予定
彼岸とはさとりの世界太陽が真西に沈むお彼岸は阿弥陀仏の。
西方浄土を想い、教えを聞く最適の時節です。お誘いわせのうえご参詣ください。

毎月5日 定例法話（ご命日の集い）

【講　師】県内僧侶（月替わり）【日程】14：00～勤行と法話(15：00 終了予定)
〈広島別院開基 教如上人の御命日（毎月５日）に法話会があります。〉

道場樹

【編集室より】

七月に入り九州や北陸で大雨による災害が起こった。全国各地で様々な災害が起こるが、広島での大雨による災害も記憶に新しい。平成二十六年八月の安佐北区・安佐南区での大規模な土砂災害、平成二十九年、平成三十年と西日本を中心とした大雨による災害。特に平成二十九年の島根県や広島県北部の災害が起こった時のことを思い出す。

平成二十九年七月五日、娘が修学旅行に出発する日のことだ。朝から大雨が降り続き警報が出ていたが、修学旅行には決行するとの連絡。「う～ん」と思いながら車を走らせた。しかし、学校までの道は途中で通行止め、回り道しても土砂崩れや道路の陥没で学校へたどり着けない。学校へ連絡して「行けないんですけど、、。」しかし学校の返答は「皆さん来ておられます。遅れて出発しますので気を付けてお越しください」と。どうやって他の人は学校へ行ったのか？通行止めの場所へ戻り、確認してみると少しの冠水とのことで通れるようになり、何とか学校へはたどり着けた。

色々と考えて学校は決断したようだが、何事もなく無事に修学旅行を終えて帰ってきたから良いものの、危機管理のこと思うと、果たしてあの決断は正しかったのかと、今も思う。

私も諸行事を開催するにあたり、どうにかしてやりたい！と思うことが多いが、『止める決断をする勇気』を持つが大切であると再確認した。

（G・M）

真宗大谷派(東本願寺)
広島別院 明信院
〒730-0044　広島市中区宝町 4-16
TEL 082-241-5342（電話・FAX 共通）
東本願寺 広島別院
検索